

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：14503  
 研究種目：基盤研究（C）一般  
 研究期間：2009～2011  
 課題番号：21520633  
 研究課題名（和文） 電子ポートフォリオを利用した英語教師の学びと成長：ナラティブ生成と授業改善の支援  
 研究課題名（英文） English Language Teacher's Development Through the Use of E-portfolio: Facilitating Their Narrative Inquiry in the Classroom  
 研究代表者  
 吉田 達弘（YOSHIDA TATSUHIRO）  
 兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
 研究者番号：10240293

研究成果の概要（和文）：本研究は、英語教師が綴ったナラティブを研究者と教師が協働的に解釈し、教師の成長過程を明らかにする研究である。危機的出来事(critical events)等の教育実践を巡る教師の経験が、ナラティブとして言語化され、ネット上に構築された電子ポートフォリオに蓄積された。その後、教師自身と研究者によって共有され、社会文化的理論に基づいて解釈・分析され、英語教師と研究者の対話を通じた学びと成長の過程が明らかにされた。

研究成果の概要（英文）：The present study aimed to analyze English language teachers' narratives and to trace the process of their professional development. Teachers' experiences in the classroom, including "critical events", were articulated as a written narrative form and archived and shared in their e-portfolios. The narrative data were then qualitatively analyzed based on Sociocultural Theory. The result revealed the ways in which the teachers interpreted their experiences. It was also suggested that the dialogic process among the participants including teachers and teacher educators had made a significant contribution to teacher's professional development.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・言語教育

キーワード：英語教育，教師教育，ナラティブ，電子ポートフォリオ，質的研究，社会文化的理論

1. 研究開始当初の背景

わが国の英語教育研究において、教師自身の認知、信念、知識を対象とした質的研究はまだ少ない。実際に行われている研究についても、従来の実証主義的研究の影響を強く受けており、質問紙等で調査した教師の経験や

信念をカテゴリー化、量化および一般化する研究が多い。しかし、海外の外国語教育研究の動向を見ると、それまでの実証主義的な研究から 80～90 年代に起こった「物語的転回(narrative turn)」、あるいは、90 年代の後半に起こった「社会文化的転回(sociocultural

turn)」を契機に、人間観や言語観および人間と環境との関係性についての新しい認識論が現れ、授業や学習の質的研究が勢いを増している。社会文化的アプローチやナラティブ・アプローチに代表されるこれらの枠組みでは、外国語教育や学習が、教師や学習者個人の単なる情報処理の結果とはみなされず、常に、他者や環境との相互作用の中に現れる行為であり、人間の経験や知識がストーリーの形で記憶されていること、さらに、社会・文化的、制度的、あるいは、政治的な要因を含めた状況の中で「活動する個人」が研究対象となることが強調される(Johnson & Golombek,2002; Lantolf, 2000)。

以上のような研究の枠組みの中では、教師が自らの経験を綴ったり、語ったりすることによって生成されたナラティブを研究データとし、それを解釈することで、教師の信念、実践知、動機を明らかにされており、海外の外国語教育研究および教師教育研究では、ナラティブが正当な探求方法であるという認識が高まっている(Johnson & Golombek, 2003; Karaja, Menezes& Barcelos, 2008 など)。しかし、わが国の英語教育研究では、量的研究に基づく実証主義的な研究が依然として主流であり、ナラティブは、主観的で一般性の低いデータであると考えられる傾向にある。こういった国内の学術的な状況を改め、英語教師の学びや成長を対象とした研究、および英語教師自身が自らの成長と授業改善のために取り組む研究の枠組み作りを行うことは、英語教育だけでなく教師教育研究において喫緊の課題である。

## 2. 研究の目的

上記の研究の背景のもと、本研究では以下の事柄を研究の目的とした。(1)英語教育研究におけるナラティブ・アプローチの研究手法の精緻化、(2)ナラティブ生成を支援する電子ポートフォリオのインターフェイス、アクセシビリティの改善、(3)教師のナラティブ・アプローチの経験と教室での授業実践の変容の相互作用の解明、である。

### (1)英語教育研究におけるナラティブ・アプローチの研究手法の精緻化

心理学や教育学研究一般の中で近年、著しく研究がすすんでいるナラティブ・アプローチを中心とした研究についての理解を深め、英語教育におけるナラティブ研究の基盤作りを行う。

### (2)ナラティブ生成を支援する電子ポートフォリオのインターフェイス、アクセシビリティの改善

これまでの研究で試行した電子ポートフォリオのインターフェイス、アクセスのしやすさに大幅な改善を加え、テキスト(文字)

によるナラティブ生成支援の機能を強化するほか、音声や動画、静止画といった他のメディアも利用可能にすることで、ナラティブの再現性を高めたり、多面的な分析・解釈を可能にする。最終的には、「三次元的ナラティブ空間」(Clandinin & Conneley,2000)を創出することを目指す。

### (3)教師のナラティブ・アプローチの経験と教室での授業実践の変容の相互作用の解明

本研究の中心的な課題となる。(1)の成果をベースにし、ナラティブを綴る英語教師の認識の変化と授業実践の変化が、どのような相互作用をもたらすのかについて、教師が授業実践を行うコンテキストを視野に入れながらエスノグラフィックな手法で明らかにする。具体的には、ナラティブ・データの分析から、まず、英語教育実践の経験がどのようなメタファーや言語によって意味づけされているのか、また、教師自身の実践に対する認識や洞察が、語りの中でどのように変容するかを明らかにする。さらに、そういった教師の認識の変容が、教室での生徒とのインタラクションや指導法の変化などに及ぼす影響を、参与観察やビデオ記録をもとに分析する。(3)の課題は、その性質上、少数事例に限定せざるを得ないが、多面的かつ丁寧に記述・分析することで、これまでの英語教育研究では見られなかった教師研究、授業研究の成果が期待できる。

## 3. 研究の方法

3カ年にわたる研究は、以下のような計画・方法に基づいて行われた。

### (1) 2009年度

- ① 最新のナラティブ・アプローチの理論的枠組みおよび分析手法に関する文献の収集・分析
- ② 海外におけるナラティブ研究と教師教育の研究動向に関する調査
- ③ 電子ポートフォリオ・システムのインターフェイス、アクセシビリティの改善
- ④ 電子ポートフォリオ上でのナラティブ・データの収集開始
- ⑤ ナラティブ・アプローチの枠組み、データ分析方法論の確定
- ⑥ ナラティブ・データの分析

### (2) 2010年度

- ①電子ポートフォリオ・システムの運用、ナラティブ・データの収集(継続)
- ②ナラティブ・データの分析(継続)
- ③教師のナラティブ・アプローチの経験と教室での授業実践の変容の相互作用
  - 教室での授業観察・記録
  - 授業記録とナラティブの分析
- ④学会における研究の途中経過の発表(第

(3)2011年度

- ①電子ポートフォリオ・システムの運用, ナラティブ・データの収集 (継続)
- ②教師のナラティブ・アプローチの経験と教室での授業実践の変容の相互作用 (継続)
- ③学会発表 (最終)
  - AILA2011 (国際応用言語学会議・開催地中国・北京) (平成24年8月予定)
- ④報告書作成

4. 研究成果

先に掲げたそれぞれの研究の目的について, 本研究の成果について述べる。

(1) 英語教育研究におけるナラティブ・アプローチの研究手法の精緻化

海外での第二言語教育研究において, 1990年代以降, 教師による研究が推進されているが, なかでもナラティブ研究は, 近年, 言語教師教育の分野で急速に注目を集めている (Barkhuizen, 2011; Johnson, 2009; Johnson & Golombek, 2002, 2011a, 2011b; Kalaja, Menezes & Barcelos, 2008; Swain, Kinnear & Steinman, 2010)。2011年に発行された TESOL Quarterly 第45巻3号は, Narrative Research in TESOL という特集を組み, 教師教育を含めた様々な領域から言語教育におけるナラティブ研究に関する論文が収められている。

例えば, Johnson & Golombek (2000)は, ナラティブ的探究に取り組むことで, 当該の教師に影響を与えている知識, 経験, 教室実践の複雑さ, また, 教師として成長してきた過程が明らかになり, それによって自分の教育実践を意味づけしたり, 今後の教師としての成長のあり方を再考することが可能になるとしている。Johnson & Golombek は, 自らの語りを解釈することで, 教師の内面性が変わる (change within themselves) と主張しているが, これは, 当事者である教師が他者との協働的な語りの分析を通して読み取り, 意味づけをすることによって初めて可能になる変化で, 「明日の授業を変える」といった即効性のある変化, あるいは, 単なる技術面での変化とは異なる。

また, ナラティブの分析方法についても, 精緻化が進んでいる。例えば, Webster & Mertove (2007)は, 語り手の経験における危機的出来事 (critical events) に注目している。危機的出来事とは, 語り手がそれまで持っていた常識を問い直し, その後の生き方に対して示唆を与えるようなインパクトの大きい経験を指す。また, 第二言語教師教育では, Johnson & Golombek (2011)が, 社会文化的理論の立場から教師教育におけるナラティブの機能と, そ

の機能によって生じる言語教師の変容について論じている。それらは,

- ・言語化機能 (narrative as externalization)
- ・概念化機能 (narrative as verbalization)
- ・系統的な引き出し機能 (narrative as systematic examination)

である。このような機能的な観点からナラティブを分析し, 教師の専門家としての力量形成が行われているかを検討している。

ナラティブ研究が活発化するにつれて, 社会的あるいは言語学的な手法を用いて, ナラティブ分析の精緻化がさらにすすんでいるが, 同時に, 方法自体は多様化していく可能性がある。今後は, 分析対象の文脈や当事者により適切な分析方法を評価する手立てが必要になってくるだろう。

(2)ナラティブ生成を支援する電子ポートフォリオのインターフェイス, アクセシビリティの改善

この数年, 様々なウェブアプリケーションが開発されているが, 本研究では, 外部サーバーにインストールした Google Apps for Education を活用し, 研究組織内のコミュニケーションの活性化および研究協力者である英語教師がナラティブを蓄積し, 一部をメンバー内で共有し, 批評し合う仕組みを構築した。さらに, ブログ生成機能を持つ WordPress を導入し, 研究協力者が自らのナラティブに省察を加えながら, 再構成した内容を公開するしくみを整えた。本研究では, Google Apps と WordPress をあわせたウェブアプリケーションを「電子ポートフォリオ」とした。いずれのアプリケーションも多機能ではあるが, 操作が容易であり, また, 研究組織内のコミュニケーションを促進するツールとして活用された (下図参照)。

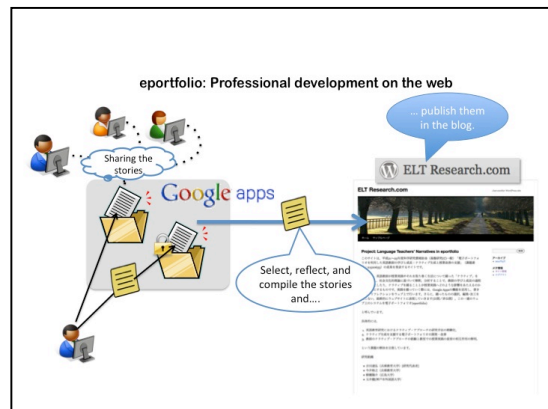


図.電子ポートフォリオの機能

本研究では, 研究分担者5名に加え, 中学校あるいは高等学校の英語教師である研究協力者が8名加わり, 研究が開始された。その後, 研究協力者のうち, 3名が活発にナラ

タイプを綴り、ウェブサイト公開した。

### (3)教師のナラティブ・アプローチの経験と教室での授業実践の変容の相互作用の解明

本研究におけるナラティブ・データの分析から、教師が、自らの教育実践について書き綴り、それを研究者とともに内省することは、その後の教師の成長にインパクトを与えることが明らかになった。例えば、研究協力者である男性英語教師が取り組んだナラティブでは、自身の授業実践での出来事や経験の意味の問い直しが行われた。英語の授業で言語活動を行う際にペアワークを頻繁に用いる。しかし、この男性教師は、授業中に生じたある危機的出来事から、ペアワーク活動に関する再概念化を行うこととなった。つまり、ペア活動は、目的やそこで一緒に取り組む生徒の組み合わせなどに敏感(sensitive)な活動であり、教師はそのことを十分に考慮した活動をデザインすることが必要であり、単なる学習形態の問題から、「学びあう関係作り」や協働学習の問題へと再概念化が行われたのである。さらに、実践に関する概念化を行わずに、活動を実施してしまうと、活動そのものが形骸化し、反対に学習の質を落としてしまうことにもなりかねないことを自身のナラティブの中に発見している。教師実践を綴ろうという意識的にそして、教室の出来事を綴る活動に取り組むことで、教室の現象をナラティブの書き手という視点から捉えるようになったことがわかった。このような教室の見方は、現象に意味づけを行い、なぜそのようなことが行ったのかを教師に考えさせる契機を与えると思われる。

さらに、ナラティブは、教師がプライベートに綴ったものに終わらず、ウェブアプリケーションを活用した電子ポートフォリオで共有され、共有されたナラティブを巡ってコミュニティ内での対話が可能となった。つまり、メンバーは、書き手に対して質問やコメントをし、書き手も応答することで、さらに思考を深めることとなった。一方、研究者も、書き手の思考を引き出したり、深めたりするような手法(方略的媒介[*strategic mediation*])を通じ、各教師のナラティブ的探究を促進させた。

今後、教師が自らの実践について綴り、そのナラティブを巡って、実践についての理解を深め、科学的概念化を図ること、そして、そのような活動が教師のコミュニティや教師教育者の支援によって促進されることが今後の課題となる。また、教師の言葉を研究の対象とし、学術的にも高いレベルに高めていくことも今後の外国語教師教育の大きな課題となるだろう。

### 引用文献

- Barkhuizen, G. (2011). Narrative knowledging in TESOL. *TESOL Quarterly*, 45 (3), 391-414.
- Clandinin, D. J., & Connelly, F. M. (2000). *Narrative inquiry: Experience and story in qualitative research*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.
- Johnson, K. E., & Golombek, P. R. (2002). Inquiry into experience: Teachers' personal and professional growth. In K. E. Johnson & P. R. Golombek (Eds.), *Teachers' narrative inquiry as professional development* (pp.1-14). New York, : Cambridge University Press.
- Johnson, K. E., & Golombek, P. R. (2011a). A sociocultural theoretical perspective on teacher professional development. In K. E. Johnson & P. R. Golombek (Eds.), *Research on second language teacher education: A sociocultural perspective on professional development* (pp.1-12). New York: Taylor & Francis.
- Johnson, K. E., & Golombek, P. R. (2011b). The transformative power of narrative in second language teacher Education. *TESOL Quarterly*, 45 (3), 486-509.
- Kalaja, P., Menezes, V., & Barcelos, A. M. F. (2008). *Narratives of learning and teaching EFL*. Hampshire, UK: Palgrave Macmillan.
- Lantolf, J.P. (2000). *Sociocultural Theory and Second Language Learning*. Oxford University Press.
- Swain, M., Kinnear, P., & Steinman, L. (2010). *Sociocultural theory in second language education: An introduction through narratives*. Bristol, UK: Multilingual Matters.
- Webster, L., & Mertova, P. (2007). *Using Narrative Inquiry as a Research Method: An Introduction to Using Critical Event Narrative Analysis in Research On Learning And Teaching*. London: Routledge.

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

吉田達弘「媒介的道具としてのナラティブを用いた英語教師の成長」関西英語教育学会誌 *Studies in English Language Teaching*, 査読有, 35号, 2012年, pp.45~61.

[学会発表] (計5件)

吉田達弘・坂本南美, 「電子ポートフォリオを活用した教師のナラティブとその分析に関する研究」全国英語教育学会第36回大阪研究大会, 2010年8月7日, 関西大学.

Yoshida, T., Imai, H., Yanase, Y., Tamai, K.,

Zeng, G., Sakamoto, N. & Matoba, M. EFL teachers' conceptual development and the transformation of teaching through narratives in the e-portfolio, AILA 2011 Beijing, 2011年8月25日, 中国・北京外国語大学.

Tamai, Ken. Social roles of writing a reflective journal: What shifts of a teacher's perspective in the reflective journal bring about, 関西英語教育学会第16回研究大会, 2011年6月4日, 関西大学.

Tamai, Ken. A novice teacher's growing reflective literacy: Analysis of a teacher's journal text with the Systemic Functional perspective. 第37回全国英語教育学会山形研究大会, 2011年8月20日, 山形大学.

Tamai, Ken. Impact of Systemic Functional perspectives as a means to capture growing reflective literacy: Analysis of a novice teacher's teaching journal. British Association of Applied Linguistics. 2011年9月. University of the West of England.

[図書] (計2件)

Said, Selim Ben & Zhang, Lawrence Jun.(Eds.) Routledge. *Language Teachers and Teaching: Global Perspectives, Local Initiatives* (吉田達弘がEFL teachers' conceptual development and the transformation of teaching through narratives in the e-portfolio を執筆), 2013年出版予定.

Johnson, K. & Golombek, P. (Eds.) Routledge. *Research on Second Language Teacher Education: A Sociocultural Perspective for Professional Development.* (Chapter 9 を吉田達弘が執筆), 2011, 285p.

[その他]

ホームページ等

<http://elt-research.com/wp/narrative/>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

吉田 達弘 (YOSHIDA TATSUHIRO)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号：10240293

### (2)研究分担者

今井 裕之 (IMAI HIROYUKI)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号：80247759

柳瀬 陽介(YANASE YOSUKE)  
広島大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：70239820

玉井 健(TAMAI KEN)  
神戸市外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：20259641

### (3)研究協力者

カレン・ジョンソン (Johnson, Karen E.)  
ペンシルバニア州立大学・教授

坂本 南美 (SAKAMOTO NAMI)  
兵庫県立大学附属中学校・教諭

神原 克典(KAMBARA KATSUNORI)  
西宮市立大社中学校・教諭

堂本 佳樹(DOMOTO YOSHIKI)  
三田市立狭間中学校・教諭

ソ コウ(ZENG GANG)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・特命准教授 (2011年度まで)